

会 議 録

1 会議名

令和6年度第4回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

- ・地域おこし協力隊、集落づくり推進員との意見交換
- ・部会報告

○報告事項（公開）

- ・ファシリテーション研修について
- ・第2次上越市総合公共交通計画（後期再編計画）について
- ・旧寺野小学校校舎の利活用に関するサウンディング型市場調査の実施について

○その他（公開）

3 開催日時

令和6年8月27日（火）午後6時00分から午後8時00分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 201・202会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：小林政弘（会長）、植木節子（副会長）、秋山秀夫、新井武司、小川義雄、釜田富男、小林昌子、清水淳一、庄山健、中澤健一、深石敦子、藤原順昭、南直樹、山本孝一
- ・事務局：板倉区総合事務所 宮下所長、内藤次長、名倉次長、高橋建設グループ長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、清水

教育・文化グループ長、千葉地域振興班長、金井主任

8 発言の内容（要旨）

【内藤次長】

- ・ 会議の開会を宣言

【小林会長】

- ・ 挨拶

【小林会長】

- ・ 条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。会議の成立を報告。
- ・ 会議録の確認を釜田委員に依頼。

3 自主的な審議「地域おこし協力隊、集落づくり推進員との意見交換」について、事務局から説明をお願いします。

【千葉地域振興班長】

地域協議会の中で、これまでに何回か、地域おこし協力隊と集落づくり推進員の活動内容について話題になったので、今回、協力隊と推進員から直接話をきく機会を設けた。簡単なプロフィールは別紙1のとおり。

【小林会長】

地域協議会として皆さんに何か協力できないか、板倉区の課題につながることはないかと考えていたこともあり、皆さんから意見を聞きたいと思っていた。

お一人ずつ、板倉区にどういう思いをもって来られたか、現在の活動内容、これからやりたいこと、などを含めて自己紹介をしていただき、その後、委員から質問させていただく。

【福井隊員】

- ・ 仕事やプライベートで板倉区や寺野地区を訪れたことがあり、その時の印象と協力隊の募集要項の内容で応募を決めた。
- ・ 寺野地区連絡協議会の会議への出席、寺野地区の5団体が活動する際の支援、中山間地域直接支払の調整のほか、板倉区内でのイベントを計画し実施している。
- ・ 任期が残り8か月となり、退任後のことはまだ決まっていないが、退任後もこれまでの活動は継続したい。また、今やっている活動を任期までにどう整理し

ていくか考えていきたい。

【前倉隊員】

- ・ 元々、薬膳や東洋医学に興味があり、開業地を探し全国を回っていた。最後に訪れた地が筒方で、インスピレーションでここに決めたが、結果的に正解だったと思っている。
- ・ 惚れて来た地なので、最初の1年はいろいろなことに感動してなんでもかんでも首を突っ込んでいたが、2年目からは課題的なことが見つかってきたので、地域の皆さんの知恵を借りながら試行錯誤しているところ。
- ・ 板倉区の方は食に恵まれ過ぎているせいか自覚がないが、本当にこの地は素晴らしい。その素晴らしい食材が活かさないか模索し、また、空き家の活用ということからも、食品加工をする場として利用できる空き家を探している

【野口推進員】

- ・ 集落巡回をする中で、移動支援や通院支援が話題になることが多い。
- ・ 町内会長から相談されることもあるが、一人で抱えないよう町内会で話し合いの場を作ることを促し、対策を一緒に考えることもしている。
- ・ 自分自身も移住者だが、移住者と地域の人とのつながりが薄いように思う。移住支援というより、地域が求めた人材を確保するという観点にすればうまくのではないか。
- ・ 集落の維持、集落じまいなどそれぞれの集落の将来像に合わせて、地域が今できること、望むことを支援していきたい。

【小林会長】

協力隊の移住先の町内会からコメントはあるか。

【藤原委員】

いろいろな面で協力いただいているが、任期が終わっても引き続きお願いしたい。

【新井委員】

3人にお世話になっている。先ほど前倉さんに聞いたら稲が倒れて困っているようなので、相談してもらえば協力したい。

【小林会長】

意見交換を始める。質問はあるか。

【小川委員】

移住者の中には、地域とのつきあい、町内会費の支払いを拒否する人がいるが、そういうとき野口さんに相談してもよいのか、町内会で対応するのか。

【野口推進員】

町内会費は法的なものではないので、町内会と移住者でよく話し合ってもらえないが、移住者に「皆さん払っていますよ」という程度は言うことはできる。

また、担当集落の希望により「自治会紹介シート」を一緒に作成している。それは移住希望者から照会があった際に、町内会につなげるためのものであり、多文化共生課が移住・定住希望者向けの市ホームページで紹介している。

それ以外については、町内会で移住者に説明してもらえない。

【小川委員】

私の町内会では、新規転入者は町内会費の他に5万円必要だが、最初は拒否され、徴収が大変だった。何かいい解決方法がないものか。

【小林会長】

空き家対策と移住者の問題は、町内会長がアンテナを高くし対応していくしかないのではないか。

【植木副会長】

空き家の所有者が売買するときに、不動産屋に町内会費のことなどをしっかり伝えておくことが大事である。

【藤原委員】

私の町内会にも2、3軒あるが、そういう問題は都市部の方がめずらしくないのでは。地域のサービスは受けたいが、町内会費は払いたくないという人は増えてくるのではないか。

【小林会長】

空き家対策等は大きな問題。地域協議会の中でとりあげるような課題なので、その際は野口さんに相談させていただくこともあるかと思う。

【釜田委員】

前倉さんに質問。おっしゃるとおり我々住民は食に対して当たり前で、意識していないところがあるかもしれない。いい蕎麦を作ったとしても消費する人がいない

と事業として発展しないと思うが、蕎麦を作って売り出すのがメインか、それとも開発の様子など板倉の蕎麦をユーチューブ等で発信していくのをメインとしているか、どちらをお考えか。

【前倉隊員】

どちらかということではなく、売る、作る、食べる、認知してもらい、今できることは手当たり次第やっている。自分が正しいと思ってやっていたことでも流れは変わることがあって、私の姿勢として、いろいろやってできてきた流れに乗る感じ。今は作り手の部分に力を入れているが、発信もしつつそれに対する声を大事にしていきたい。

【釜田委員】

情報を発信しながら、開業のために空き家などを含め新しいところを探していらっしゃるとのこと。空き家や蕎麦のことなど地域の人々の意見も聞きながら、地域の人たちと一緒に活動していただければと思う。

【庄山委員】

寺野地区にはいろいろな団体があるが、やすらぎ荘とコラボレーションの案があっても、理由は分からないがなかなか実現が難しいらしい。福井さんが間に入ることによって実施できないか。寺野地区には歴史的、文化的なものが多い。例えばトラクターの乗車など普段経験できない体験を組み合わせ、やすらぎ荘を中心に観光という形でつなげられないか。

【福井隊員】

やすらぎ荘は核になる施設だと思っているが、経営には口出ししにくく、なかなか難しい。ただ将来的には、例えば高齢化で継続が難しい「いろりばたグループ」など、やすらぎ荘に結びつけることで道をつけられたら、と頭の中では考えている。

【庄山委員】

地元の人に提案してもあまり乗り気ではない。やすらぎ荘との間にどんな障害があるのか。

【福井隊員】

何かありそうだということしか分からない。

【小林会長】

以前から地域協議会でもそういう話題が出て、やすらぎ荘とのコラボレーションによりメイン観光事業となるような何かできないかと提案するが、見えない何かによってなかなか話が進まない。寺野地区の藤原委員、何か意見あるか。

【藤原委員】

例えばトラクターの話も、ニーズがあるかどうか。また、来る人がいても常に対応できるかどうかは分からない。

寺野地区で実施している芝桜まつりは来場者が増え、やすらぎ荘の来客者用駐車場が不足するという事になっている。地元の方はやすらぎ荘の経営にプラスになってくれればと思いやっているが、やすらぎ荘からしたら、普段利用されているお客様に迷惑をかける事になっていて、必ずしもマッチングするわけではないという問題がある。

【植木副会長】

ふるさと納税返礼品として、寺野地区で実施している「棚田田植え・稲刈り体験ツアー」はどんな調子か。

【福井隊員】

私は、農村振興課と板倉区中山間地域農業振興会が運営している事業に協力している立場。田植えのときは20人位参加し、9月22日に稲刈り体験がある。

【植木副会長】

すばらしい事業だと思う。

やすらぎ荘に力が入らないのは、ボイラーが壊れたからか。そういう噂がある。

【佐藤産業グループ長】

指定管理者からは壊れたとの報告はないが、また確認する。

【清水委員】

芝桜の手入れがたいへんだと聞いた。芝桜まつりは地域に徐々に認知され、入場者数が増えて盛大になってきたが、地元は高齢化で芝桜の手入れをする人がいなくなってきた。継続のため私たちにもできることがあれば地元の方と話し合いながら協力したい。

筒方のふきんとまつりについても、行列ができるほど大きくなった。メインは蕎麦だと思うので、地元の皆さんとコンタクトをとりながら継続していただきたい。

前倉さんから東洋医学の話があったが、ヨモギやドクダミは売れる。どこにあるか地元の人は熟知しているので、地元の人のおこづかい程度にでもなればと思う。

【小林会長】

有意義な意見交換だった。3人の活動の理解度も深まった。今後とも連携を深め、課題を受け止めながら地域協議会としても対応していきたい。

いずれにしても活動のベースは地元町内会や集落の皆さんなので、地域との信頼関係が大切であるが、何かあれば地域協議会でもバックアップしていきたいと思う。

【小林会長】

(2) 部会の報告に移る。初めに地域振興部会にお願いする。

【清水委員（地域振興部会 座長）】

以前は各集落でやっていた神楽やどんど焼きなど、「復活」をターゲットにした催しができないかとの意見が出た。「神楽と板倉音頭の復活—板倉ルネッサンス」がテーマの夏祭り、と、伝統行事継承という観点から「どんど焼き」という案が出たが、今後、具体的なことを部会で詰めてこの場で提案できるようにしたい。

【植木副会長（地域振興部会）】

来年実施に向けて、来年度予算編成に間に合うよう提案した。

【小林会長】

次に健康福祉部会にお願いする。

【南委員（健康福祉部会）】

板倉区の課題については、人口減少、人口流出、少子高齢化、中山間地域での生活、買い物や移動の不便さ、担い手不足、健康に対する意識や地域、近所とのつながりが薄くなっているとの意見が出された。

部会で取組むテーマとして、「高齢化に向き合い、板倉区で何ができるか」、「『将来目指す姿』になるために、何ができるか」ということを考え、介護が必要にならないための健康づくり、そのために何をしていくか。また、課題解消のための取組みに向けて、公的な支援や環境づくりなどはどうしていくか、などの意見があった。

本来あるべき姿または将来目指す姿として、「高齢者が住み慣れた地域で、困ることがないように安心して生活し続けることができる」とし、そのための方法として、現在の状況把握、例えば統計資料、支援や施設の状況、地域での活動状況などを調

べたうえで、今後、必要となることを洗い出し、部会で話し合いを進めていきながら将来目指す姿に向けて取組んでいく必要がある、ということになった。

【小林会長】

次に地域防災部会をお願いします。

【秋山委員（地域防災部会 座長）】

現状把握のため、まずは自主防災組織と、それをサポートする防災士会について調べた。自主防災組織は50町内会全てにあり、防災士は30人、防災士のいる町内会は21町内会で半分くらい。こういった問題も含めて、これから部会で課題を検討していきたい。

【小林会長】

どの部会も短時間のうちによく検討されたと思う。来年の3月に活動報告会があると思うので、部会から中間報告をしてもらいたいと思う。

ただ、地域振興部会の案は来年度の地域独自の予算に関わることで、地域協議会の総意を得て進めていくことが基本なので、来年実施に向けての皆さんの意見をお聞きしたい。個人的には「板倉ルネッサンス」は非常にいいことだと思っている。

【秋山委員】

盆おどりは他の地域でも復活していると聞き、参加も簡単にできそうだが、神楽は難しいのではないか。

【新井委員】

今から具体的なことや組織を決めていかないと、来年には間に合わないのではないか。

【小川委員】

各町内でも同じ時期に夏祭りやどんど焼きをやっているので、開催時期を考えると難しいのではないか。

【釜田委員】

地域協議会でいろいろ苦勞しても、やっていただくのは住民。住民の皆さんが参加しようとする気にならないと計画倒れになる可能性もあるので、周知の仕方などを十分に検討する必要があると思う。

【小林委員】

各集落でもやっていることだが、大きな夏祭りという案には賛成。周知してどうやって盛り上げていくことになるかと思うが、よく計画して進めていただきたい。どんど焼きも、私の町内会では伝統をなくしてはいけないという思いから、子ども会から引き継ぎ、町内会で実施している。やり続けることは難しいことだがやっていただきたい。

【庄山委員】

夏祭りは、内容がもっと整ってこないと判断できない。どんど焼きはわが町内会も一度やめたが、神棚の飾りなどを燃やす場所がないという声があり再開した。実施していない町内会もあるので調整して実施してほしい。

【深石委員】

私の町内会では秋祭りに神楽をやっているが、町内から出た若いお父さんお母さんが、子どもを連れて見に来る。小さい頃に体験したことは、大人になっても懐かしいと思い、ふるさとを大切に思う心は育っていくと思う。どんど焼きは、組み立てる方法を知っている人が少なくなっている。

【藤原委員】

神楽は神事で、宗教的なことなのでひっかかる部分が出てくるのではないか。盆踊りは、以前は各集落でやっていたが、今はどれだけ人が集まれるかという状況である。どんど焼きは具体的なことが見えないので何とも言えない。各地域で行っている行事とどう関わることが気になるところ。

【南委員】

針町内会では塚之宮例大祭で板倉音頭を踊っており、どんど焼きも青年会と子ども会主体で実施している。提案のあったイベントは、新たに実行委員会を立ち上げるということだが、誰がやってくれるのか手を挙げてくれる人がいるのかという難しさがああり、来年度予算に計上するには難しいのではないか。

【小林会長】

提案の理由には、伝統文化を残していきたいということと、板倉区は夏に大きなイベントがないということもある。地域協議会は実行部隊ではなく協力支援となることから、人を動かすには来年の夏には少し難しいように思う。今後、部会で慎重に検討いただき、地域協議会としては、来年にこだわらず実施する方向で進めてい

きたいと思うが、反対意見はあるか。

(意見なし)

【小林会長】

実施の方向に向けて、部会で検討いただきたい。

【千葉地域振興班長】

確認だが、来年は実施しないということによいか。アイデアとしてはすばらしいが、今の段階で実行委員会がしっかり決まっていなかった状況では、来年の実施は難しいように思う。また、そもそも住民がやりたいと思うイベントなのか、現在、各地域で伝統のあるお祭りが実施され、その担い手がいなくなるという課題もある中、新しいイベントに対して賛同を得られるのかということもある。まずは住民の声を聴いていただきたい。

【植木副会長（地域振興部会）】

私が発案した話だが、広報誌を見て板倉区だけ夏に祭りがなかったことから、何かした方がいいと思った。ただ、イベントが多すぎても大変なので、イベントの整理も必要ではないかと思っている。

どんど焼きは、部会内でも、そんなに多くのイベントはできないという意見もあったことから、夏祭りだけでも実施できればと思っている。

【中澤委員（地域振興部会）】

板倉の文化、伝承を大事にしていくというのが根本なので、大きな祭りをするというやり方もあるし、地域ごとにやっている祭りに板倉音頭復活のために踊り隊を組織して踊ってみるという方法もある。いろいろなやり方があると思う。どういう方法で今の時代に合わせたルネッサンスができるか、部会で検討していきたい。細かな動きであればお金をかけずに実施することも可能かもしれない。伝統も大切だが、もっと地域の色を出すとすれば、はやりもののよさこいの要素を入れてみるとか、板倉区の人がどうやって楽しく過ごせるかを主題に検討していきたい。

また、廃校となった小学校をどう活用するのも地域振興部会のミッションだと思っている。

【小林会長】

では、地域振興部会で検討し地域協議会でまた報告いただきたい。

次に、4 報告事項に移る。

まず、(1) ファシリテーション研修について、私と植木副会長が出席したので、私の方から報告する。皆さんの多様な意見を、聞く耳を持って調整し、会議のかじ取りを行うことがファシリテーションである。私と植木副会長がファシリテーターとなる。一番大事なのは、表情が硬くならないよう柔らかに会議を進めることである。今回、6人ずつのグループディスカッションを行い、他の地域協議会の正副会長と交流できてよかった。

【植木副会長】

地域政策課に対し、地域協議会のなり手がいないのは魅力がないからなので、がんばってほしいとお願いした。会議後、よく言ってくれたと2人の委員から言われた。

物事は見る角度によって見え方が変わる。多角的に見ることは一人では難しいので、皆さんから意見を言っていただき、皆さんで話し合いができる場になればいいと思っている。口角をあげてポジティブに皆さんの話を聞くようにすれば、意見も言いやすくなり良い話し合いになると思う。

【小林会長】

次に、(2) 第2次上越市総合公共交通計画（後期再編計画）について、事務局から説明をお願いします。

【千葉班長】

前回の地域協議会で、植木副会長から、コミュニティバスについての話題が出たことから、今回、地域協議会の皆さんに改めて報告するもの。

・資料2に基づき説明

予約型コミュニティバスとは、決められたルートや時刻表がなく、皆さんの予約に応じて、板倉区内の停留所間を自由に運行するもの。板倉区では、来年4月から、10人乗りワゴン車2台で運行する予定。予約は、利用したい時間の1時間前までに、電話やインターネットで行う。バス停については、現在ある停留所を基本に、町内会の意向を聞きながら、新設や移設を含め、町内会ごとに1か所以上設置できるように調整しているところ。これまで、各地区連絡協議会や町内会長へ説明を行ったが、一般の市民の方へは、板倉区だよりなどでなるべく分か

りやすく周知を行っていく予定。

【小林会長】

何か質問はあるか。

【藤原委員】

バスの停留所は、高齢者が利用しやすい場所に設置してほしい。

【千葉地域振興班長】

各町内会から設置場所の要望を聞いたが、なるべく要望に沿うようにしたいと思っている。

【庄山委員】

板倉区内しか運行せず中央病院にも行けないのでは、使い勝手が悪く、せつかく税金を使っても意味がない。

【千葉地域振興班長】

後期再編計画はすでに決まっていることなので、意見を反映させることはできないが、将来の計画の参考意見としてお聞きしておく。

【小林会長】

町内会長への説明の際など、地元の声は多く出されていたか。

【内藤次長】

4月の町内会長連絡協議会では、特に質問はなかった。

【小林会長】

4月からコミュニティバスの運行を開始することは決まったことだが、高齢者の使い勝手が悪いとサービスの低下となる。以前、小学校統合によりスクールバスの運行を始める際に、利便性に関していろいろなご意見が出たという経緯もあるので、スムーズに運行できるように地域と現場目線で取り組んでもらいたい。これからの進め方で何か予定はあるのか。

【千葉地域振興班長】

バス停留所に関して各町内会の要望を聞いたが、その結果を町内会に伝えるために近々文書を発送する予定である。

【清水委員】

コミュニティバスの利便性がよくないと思う。利用率も調べると思うが数字を押

さえておいてほしい。

【小林会長】

次に、(3) 旧寺野小学校校舎の利活用に関するサウンディング型市場調査の実施について、事務局から説明をお願いする。

【内藤次長】

旧寺野小学校校舎の利活用に関するサウンディング型市場調査の実施について、準備を進めていることを報告する。

旧寺野小学校は、平成16年3月に廃校となった後、「寺野地区総合センター」として位置づけ、校舎1階については改修し「高齢者福祉施設」として貸し付け、校舎2階・3階部分は、生涯学習施設として活用していた。その後、「高齢者福祉施設」の事業休止に伴い、令和4年7月末をもって貸付を終了した。現在は、校舎2階・3階部分は、生涯学習施設としているほか、災害備蓄品等の保管場所や市の指定避難所となっている。

1階には、厨房設備、給湯設備、空調設備などが設置されているほか、居室が9つあり、現状を生かした「福祉施設」としての利用が可能と考えられることから、「資産の有効利用」と「施設の維持管理経費の圧縮」を図るため、サウンディング型市場調査を行い、民間事業者に広く意見や提案を求め、市場性等を把握したいと考えている。

旧寺野小学校については、これまで、地域協議会や寺野地区からも今の設備を生かした利用を望む声をいただいていた。

また、現存する設備を活用していただければ、新たな投資を抑えられるというメリットもあることから、まずは同種の事業者にしぼり、調査を行うもの。調査結果は公表させていただく。調査でいただいた意見を踏まえ、事業実施の可能性がある場合は、改めて事業予定者を募集する予定としている。

【小林会長】

何か質問はあるか。

【藤原委員】

対象は福祉関係に限るのか。

【内藤次長】

前回使用していたのが福祉事業者なので、まずは同じような形の利用を考え、市内の福祉事業者にご案内をさせていただく。

【藤原委員】

前回の状況を聞くと福祉事業者は難しいのではないかと。何より交通の利便性が悪いのがネックで、配置できる職員がいるかどうか。

【中澤委員】

前回廃止された原因を考えると、また同じ業種を呼び込むのはさらにパワーがいる。もう少し幅広くして参入しやすいやり方を検討されてはどうか。

【内藤次長】

福祉担当部署にも相談し、前回、経営的な問題もあったと思うが、これからさらに高齢者が増え施設としては必要だとの意見もある。まずは福祉事業者を募集し、希望者がいない場合は業種を広げ募集したい。

【小林会長】

次に、5 その他、事務局から何かありますか。

【千葉地域振興班長】

次回9月24日に開催予定の地域協議会については、会議を開催せず、午後3時頃から板倉区内の施設見学を実施したい。部会が始まったばかりで地域協議会として取り上げる課題も決定してないため、今回は、アンケート調査で要望が多かった施設の中から、個人では訪問しにくい施設の見学を予定している。今のところ、増村朴齋記念館、中村十作記念館、板倉北部スポーツセンター、旧山部小学校の4か所を考えているが、追加すべき施設があったらご意見を伺いたい。

(意見なし)

【小林会長】

他にあるか。

(なし)

【植木副会長】

・閉会の挨拶

【内藤次長】

以上で、第4回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-78-2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。